

診療科紹介 Vol.16

内分泌・代謝内科

診療の4本柱

1. 第一級の糖尿病患者教育機関を目指す
2. 糖尿病を伴うすべての病態・患者に対する血糖コントロール・指導
3. 地域の糖尿病診療レベルの向上、連携を促進
4. 内分泌代謝疾患全般に対して質の高い医療を提供



2017年度、内分泌・代謝内科カンファレンスメンバー

スタッフおよび施設認定

当院内分泌・代謝内科はスタッフ2名とレジデント1名で構成されています。

日本糖尿病学会認定教育施設であり、糖尿病専門医を目指して研修する若手医師の育成が可能です。

糖尿病療養支援入院

糖尿病患者は年々増加傾向にあり、様々な合併症をきたすため、その発症予防や進展予防が重要な疾患です。糖尿病の患者教育がその点で重要であり、当院においては教育入院を行っています。

当院の糖尿病教育入院は、在院日数、現役世代のライフスタイルを考慮し、入院期間は11日間となるべくコン

パクトにまとめています。また、パス名も教育という言葉の抵抗もあるため、「糖尿病療養支援入院」としています。

糖尿病診療はチーム医療であることが非常に重要です。看護師、栄養士をはじめとする様々な職種と密に協同作業を行うことで、患者それぞれのQOLを重視したオーダーメイドの診療を行っています。

院内血糖管理

各診療科入院の患者で糖尿病を有する人が非常に多くなっています。周術期、感染症、心血管疾患急性期、癌化学療法等において血糖コントロールは重要であり、治療の成否に関わります。当科では入院診療科と協力

し、入院中の血糖管理に努めています。各診療科における治療において血糖が妨げにならないように努めております。

地域の糖尿病診療レベルの向上、連携

糖尿病患者は年々増加傾向にあり、専門病院だけで糖尿病問題を解決することはできません。地域医療に従事される診療所医師の協力は必須であり、また、地域全体での糖尿病診療レベルの向上が図られる必要があります。当科では地域支援病院として糖尿病地域連携パスを積極的に進め、地域の先生方と協力して治療に当たっています。今後も実効性のある病診連携システムを模索、構築していきます。

糖尿病看護認定看護師は2名体制でフットケア/療養指導外来の充実、スタッフ教育の向上に尽力されています。糖尿病透析予防管理料の算定も行っており、合同カンファレンスを開催していますが、ほかの患者に対してのカンファレンスも行っており、入院が困難な患者へのサポート体制作りにも尽力しています。

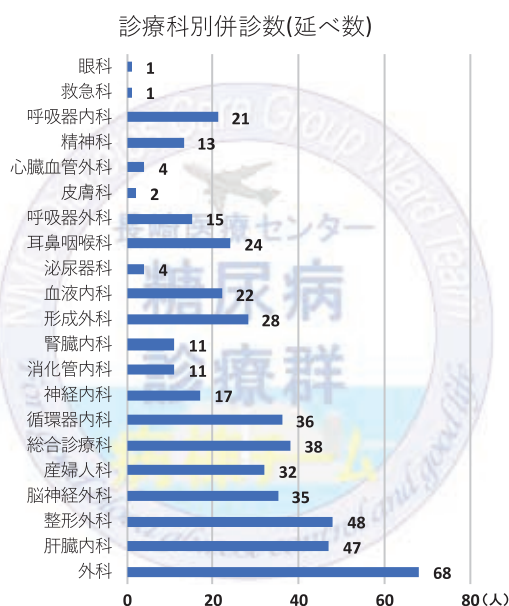
また、産婦人科と合同カンファレンスを行い、妊娠糖尿病、あるいは糖尿病合併妊娠の患者の管理をスムーズに行えるようにしています。

内分泌疾患の診療

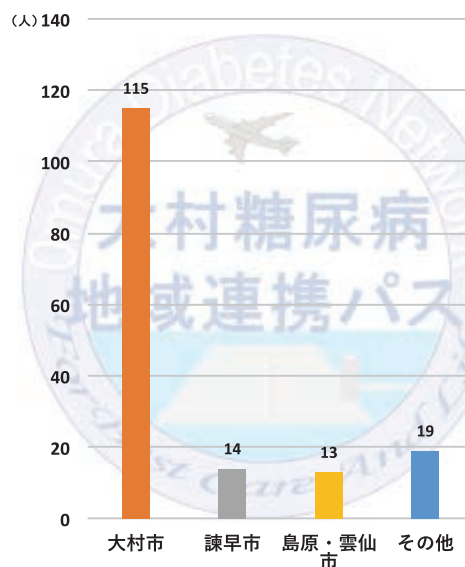
バセドウ病、橋本病、下垂体や副腎などの各種ホルモン過剰症および欠乏症に対応しており、脳外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、外科、また必要に応じて他院とも連携して診療を行っています。

疾患名	症例数
1) 2型糖尿病	91
2) 1型糖尿病	13
3) アルドステロン症	8
4) 甲状腺機能亢進症	5
5) 下垂体機能低下症	5
6) その他の糖尿病	4
7) 低血糖	4
8) 誤嚥性肺炎	2
9) 妊娠中の糖尿病	2
10) その他	13
総計	147

2017年の疾患別入院患者数



当院に入院され、当科で血糖管理を行った患者数(2016年度)



連携患者数 地区別集計(2017年3月まで)